

若い力を伸ばし活かす地域・職場づくり

丹後・未来への人の投資プロジェクト

丹後広域振興局
丹後教育局

推薦理由

【アピールポイント(組織力の発揮)】

《所属長:丹後広域振興局長 西村 紀寛》

- 人口減少や若者の流出等により管内の重点課題となっている人材確保、人材育成に向けて、関係機関が一体となって長期的な視点で多角的にアプローチした事例
- いずれの取組も市町や関係団体など多様な機関との連携・協力により実施しており、今後の取組の拡大が期待される

【プロセスの工夫、横展開が可能な点】

《アセッサー:企画振興室 宮田 英樹》

- 「人材育成」「若者活用」というテーマでそれぞれの所属で何ができるかという思考と対話により事業を形成
- 阿蘇海という限られた範囲での事業を若者のパワーを地域の活力に変える手法として丹後エリア全体に拡大

取組内容(1)

➤ 取組の分野

- 創造的事業 府民サービス向上 業務効率化 職場環境改善

➤ 現状、課題

- 管内人口の減少(国調)
2010年 104千人→2015年 97千人
高校卒業後約9割が丹後地域外へ
管内産業の若手人材の不足
- 振興局職員
局職員の30%が20代の若手



➤ 目指す姿、状態

- 「交流」と「共感」による元気な丹後
 - 若者との交流による元気で活発な活動の推進
 - 都会に出た若者が地元に戻ってくる気運醸成
- 若い世代が活発に議論し、活躍できる職場環境づくり

➤ 取組の対象、顧客、ターゲット

- 包括連携協定
国際ボランティア学生協会
- TOMORROW丹後プロジェクト
管内小中高校生及び保護者
- 丹後塾等勉強会
管内の京都府・市町職員

➤ チーム体制、ネットワーク

- 包括連携協定
市町、地域住民
- TOMORROW丹後プロジェクト(TANGO魅力伝え隊等)
教育機関、郷土資料館、地場産業団体
- 丹後塾等勉強会
本庁(自治振興課、税務課)、市町

取組内容(2)

➤ 取組内容とプロセス

＜着想(気づき)～企画立案、事業化まで＞

- 丹後地域の将来を見据え、長期的な視点で今何ができるかを各所属、分野毎に検討
 - 域外の若者との交流促進
→丹後に少ない大学生との協働による事業の拡大
 - 子供たちのふるさとへの愛着心の醸成
→教育機関との連携による小中高校生へのアプローチ
 - 振興局の組織の活性化
→若手職員の刺激を促す勉強会の継続的な実施

＜実行、実践の内容とプロセス＞

- 域外の若者との交流促進
→阿蘇海環境改善事業でつながりを持った「国際ボランティア学生協会」と協働事業を包括連携協定を締結することにより管内の他の事業に拡大
- 子供たちのふるさとへの愛着心の醸成
→小中高校生がボランティアガイドなどを体験する「TANGO魅力伝え隊」の活動や著名人を招いての講演会、ものづくりに係る出前講座の実施など
- 振興局の組織の活性化
→新たな職員勉強会「丹後塾」の立ち上げなど

工夫したポイント

- 局内のみで完結しないネットワークの構築(市町や関係団体の巻き込み)
- 企画段階から関係機関と調整(対話の推進)
- 一過性に終わらせない継続的な取組

工夫したポイント

- 気運を高めるため各首長に参加してもらい締結式を開催
- 丹後機械工業協同組合と連携した出前講座の実施
- 施設見学会や交流会の開催など地域や職員間の連携を深める取組を実施

結果とふり返し

➤ 成果、目標達成状況

- 域外の若者との交流促進
阿蘇海の取組以外に催事への参画、防災・災害支援などについて協定を締結。既に京丹後市での海岸清掃活動に着手
- 子供たちのふるさとへの愛着心の醸成
「TANGO魅力伝え隊」推進校を指定(小学校5校、高校4校)。丹後の魅力を再発見する調査活動・発表など
- 振興局の組織の活性化
丹後塾計5回(延べ264名、107名の職員が参加)
その他、新規採用職員研修、ランチミーティング、施設見学会など

取組から学んだ点

- 丹後の環境を守りたいという大学生の意欲を伝えることにより住民の気運を醸成
- 明日の丹後地域を担う人材育成という目標のもと、地域・関係団体等との連携を強化
- 次年度に向けた意見・要望をアンケートにより集約

➤ 今後の展開

- 「働き方改革」が進められる中、人材不足は深刻な課題となっており、一所属で解決できる問題ではない。今後も事業部門、内部管理部門、教育等振興局以外の機関が一体となり共通の課題認識を持って取組みを推進する。

さらに工夫したい点

- 求人情報以外のイベント情報の提供や意見交換会の開催など若者への積極的なアプローチ